

実施計画事業名		人的交流促進事業		評価対象年度	平成 22 年度		
評価担当部署		建設産業部 サハリン課		課長(主幹)名	佐藤秀志		
総合計画体系	分野	5	産業振興				
	政策	4	地域資源の再発見・世界への発信				
	施策	3	サハリンとの経済交流を促進します				
	関連施策						
現状と課題	<p>稚内港に上陸するロシア人船員に対する稚内市民の感情は必ずしも良いものばかりではない。それが、市民の一般のサハリンの人々に対するイメージへ繋がっているところもあるため、交流推進に消極的な市民も少なくない。隣人としてのサハリンの人々に対する理解を深める等の更なる国際間の相互理解が必要。また、近年のサハリンへの渡航経費、滞在経費の高騰も交流推進の妨げの一因となっている。</p>						
目的	<p>ロシア極東との善隣友好相互理解を深め、友好交流を通じ国際社会で活躍できる人材を輩出できる環境づくりと人づくりに寄与する。友好交流をより深め国際的な経済活動へと発展するための基礎を固める。</p>						
5ヶ年開の	<p>稚内コルサコフ定期航路を活用し距離的利便性を活かした行政と民間団体による交流(研修視察、スポーツ競技交流、指導者交流、文化団体による公演、地域生徒学生間交流の推進等)を継続する。</p>						
成果指標	名称		単位	21年度	22年度	25年度	
	派遣受入事業参集者年間延べ人数		人	目標 40	40	40	
活動指標	名称		単位	21年度	22年度	25年度	
	市又は国際文化交流協議会の派遣受入事業取組年間件数		件	目標 5	5	5	
活動指標	名称		単位	21年度	22年度	25年度	
	青少年国際交流事業で相互に留学を行なった学生数		人	目標 4	4	4	
活動指標	名称		単位	21年度	22年度	25年度	
	民間独自でのサハリンとの(経済交流を除く)交流事業による派遣受入人数		人	目標 -	-	-	
事業費の実績	単位		21年度(決算)	22年度(評価年度決算見込)	23年度(予算)	備考	
	直接事業費(A)		千円	2,897	5,902	241	平成23年度は、補正で予算計上する予定あり
国庫支出金		千円	0	0	0		
道支出金		千円	1,000	0	0		
起債		千円	0	0	0		
その他		千円	0	1,000	0		
一般財源		千円	1,897	4,902	241		
この事業にかかる職員数		人/年	0.96	1.03	1.03		
人件費(B)		千円	6,649	6,995	6,995		
計(A+B)		千円	9,546	12,897	7,236		
状況変化	<p>実施計画当初(平成21年～)からの状況変化 ここ数年、日本国内は経済状況が低迷し海外との交流活動が縮小傾向にあるが、サハリン側は、サハリンプロジェクトを主とするバブルにより、海外との交流の拡大を望む傾向にある。</p>						

【1次評価】

成 果	成果指標の単年度の目標値は達成できたか(単年度の目標値がない場合は、長期的な目標値を達成できそうか予測)
	a a 目標達成 b ほぼ目標どおり c 目標達成できず(目標値と大きな差がある) <cの場合は、なぜかを分析して記入する>
細 事 業 の 構 成 ・ 進 め 方	細事業の改廃や新規細事業の必要性はないか
	a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
各細事業の進め方について、市民との協働、他団体等との役割分担の見直し、環境への配慮など、改善の必要性はないか	a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
	無駄なコストが発生していないか、投入した予算や人員に見合った効果が得られているか
コスト効率	a a 問題なし b 改善の余地がある <bの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
総合評価	A 概ね問題なし <A~C判定を受けての今後の方針、問題点に対する改善策などを記入する> 今後も、互いをパートナーと意識できるような、経済交流に結び付けられる下地づくりとしての人的交流を行政と民間団体とで継続して取組みながら、サハリンとの経済交流を促進する。

【2次評価】

成 果	a	細事業の構成	a	細事業の進め方	a	コスト効率	a
総合評価	A 概ね問題なし <2次評価者の視点からコメントを記入する> 1次評価のとおり取り進めること。						

【内部評価委員会】

意見	
----	--